

が、こんな小さな積み重ねが家族の絆を強めてくれる。記念日の中には、余り良い思い出もある。それも事実のひとつとして受け止め、次への一步に役立てたいと思う。

京都から帰ると、庭の草花が炎天下のもとでも枯れずに私の帰りを待っていてくれた。

その中でも孫の喜ぶ顔を思いうかべながら植えたスイカがなつていた。これで4歳の誕生記念祝いが出来る。

以後、カラスなどにつかれないように駕籠(かご)をかぶせ、孫の誕生日のデザートにと毎日目を見張る。

さて、「トルコ至宝展」の会場前に京都大神宮の大きな鳥居があつた。京都に限らず神宮の大きな鳥居がある。ふと、なぜこんなに多い色んな神社がある。ふと、なぜこんなに多いのかと思い、帰宅して調べる。江戸時代末期まで「お伊勢参り」が

机の上には家族全員の誕生日が張つてある。長女の誕生日と重なった。我が家のイベント担当の次女が、気持ちだけでもお姉さんと一緒に誕生日を忘れないためだ。

今回、京都の「トルコ至宝展」を見に行つた時、長女の誕生日と重なった。我が家イベント担当の次女が、気持ちだけでもお姉ちゃんの誕生日をしようと夜食の際小さなケーキを頼み、気持ちだけの誕生日祝いをした。



記憶の中の記念日

京都・家族旅④



藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

ると言えばそれまでだが、こんな小さな積み重ねが家族の絆を強めてくれる。記念日の中には、余り良い思い出もある。それも事実のひとつとして受け止め、次への一步に役立てたいと思う。

京都から帰ると、庭

盛んだった。それが叶わない人々のために明治維新後各都府県にお伊勢参りの代わりにならざる神社がつくられた。京都大神宮もそのひとつ。庶民の記念日を失わないようにしたるものらしい。

。

く下の薔(つぼみ)か

ら咲きはじめ、頂上の花が咲くと梅雨が明けた。先人たちはこの

自然の恵みを大切に生

きたことが伝わってく

る。

。

。

なって庶民の暮らしの中に生きていた。

物質的には貧しかつた昔、その中で自然の恵みの花等が記念日を彩っていたようだ。

生きしていく暮らしの

。

。

。

。

。



日々が記念日、成長し続ける孫



直径13cmに成長したスイカ



京都大神宮の鳥居

勿論、孫も日々成長している。